

第8期計画の進捗状況

1. 地域で互いに支え合い、誰もが暮らしやすい地域共生のまちづくり

施策	① 高齢者が活躍できる場づくり
	② 在宅生活支援の促進

【現状と課題】

- ・ 老人クラブやシルバー人材センターは新規加入者が少なく会員数が減少しています。役員、世話人などの後継者、担い手不足が課題です。
- ・ コロナ後の集落サロンの活動状況について、調査したところ活動しなくなったり、休止状態のサロンもあります。身近な通いの場としてのサロン活動の継続的な運営支援が必要です。地区住民を対象にコミュニティセンターで地区サロンを設置している地区がありました。これから地区サロン設置しようとする動きもありますので、設置や運営の支援が必要です。
- ・ 生活支援体制整備事業について、令和5年度より第2層の生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）として5名を配置、各地域包括支援センターのエリアに1名ずつ配置し体制を強化しました。高齢者の生活課題の把握、地区の情報共有や対応策を協議するため「話し合いの場」の設置に向けて、未設置地区へ積極的な働きかけを行ったり、地域の困りごと、相談窓口の設置が必要です。
- ・ 令和5年度より、重層的支援体制整備事業を実施し、複雑化・複合化した課題に対して地域包括支援センターや関係機関が連携しながら対応しています。今後も地域包括支援センターによる自己評価の実施、PDCAサイクルによる業務の適正運営が必要です。

2. いつまでも、自立した、生きがいのある生活の支援

施策	③ 介護予防の充実
	④ 認知症との共生と予防
	⑤ 権利擁護の充実
	⑥ 高齢者のニーズに適した住まいの確保
	⑦ 医療と介護の連携促進

【現状と課題】

- ・ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を実施し、身近なサロン等通いの場でフレイルチェックシステムを活用したフレイル度のチェックや運動処方プログラムの提供を行ってきました。運動機能の評価では理学療法士にも関与してもらうなどの取り組みを進めてきました。地域包括支援センターとも連携し、この取り組みを市全体に広げていく必要があります。
- ・ 認知症への正しい知識と理解の普及にむけて、サポーターの養成と活躍の支援、家族支援の強化が必要です。

- ・ 令和4年3月に倉吉市成年後見制度利用促進基本計画を策定しました。この計画に基づき、倉吉市成年後見制度利用促進協議会を開催し、計画の進捗管理と課題把握が必要です。成年後見制度の利用を推進するための体制整備として、成年後見人等の受け皿となる市民後見人の育成、支援が必要です。
- ・ 住宅部門と連携し、住居確保要配慮者が賃貸住宅等へ円滑に入居できる環境及び支援体制の整備として、居住支援協議会設置が急がれます。また、低所得や保証人の有無に関わらず住居を安定的に確保できる補助制度等の創設について検討が必要です。
- ・ 医療と介護の連携促進に向けて1市4町の担当者と中部医師会及び倉吉保健所担当者が、医療介護の専門職や多職種が参加する「しゅいやの会」を開催、研修会等を等して、相互の連携を深めています。在宅医療や看取りに関して、住民への情報提供やニーズを把握すること、医療と介護の関係者の相互理解や協働体制の促進が必要です。

3. 必要な介護サービス提供の確保・充実

施策	⑧ 介護サービスの充実と給付の適正化
----	--------------------

【現状と課題】

- ・ 介護サービスの基盤整備として、令和3年8月からグループホーム1施設、小多機1施設がサービス提供を開始しました。また、令和5年度に介護医療院1施設を整備し、令和6年4月からサービス提供を開始する予定です。
- ・ 介護保険制度のしくみについて、コミュニティセンターでの学習会等にて、パンフレットの配布および説明を行い、住民への周知を図りました。
- ・ 令和3年度に「倉吉市ケアマネジメントの基本方針」を策定し、令和4年度に居宅および施設ケアマネへの周知を行いました。
- ・ ケアプラン点検について、県ケアマネ協の点検員派遣事業を活用し、令和3年度は3事業所6プラン、令和4年度は6事業所9プランの点検を実施しました。令和5年度は3事業所8プランの点検を予定しています。
- ・ コロナ禍の影響により、通所系や訪問系といった在宅系サービスを適切に利用できず、要介護状態が重度化していることが懸念されます。
- ・ 中部圏域における地域的な課題でもあります。ヘルパー需要に対して、採算が取れない等によりヘルパー事業所が不足している状況です。
- ・ そのため、家族や近隣住民等のインフォーマルサービスの活用を踏まえたケアプラン作成が重要といえます。

4. 第8期計画の進捗状況からみえた課題

- ◆地域で互いに支え合い、誰もが暮らしやすい地域共生のまちづくり
 - ・地域におけるつながりの希薄化
 - ・多様化および複雑化する高齢者の生活環境への対応
- ◆いつまでも、自立した、生きがいのある生活の支援
 - ・介護予防の充実
 - ・認知症への正しい知識と理解の普及
- ◆必要な介護サービス提供の確保・充実
 - ・介護給付の適正化
 - ・限られた社会資源の有効活用